

啓発ゲート設置事業の実施結果について

観光スポーツ部山岳高原観光課

1 目的

山岳遭難が多発する夏山シーズンに、北アルプスの主要登山口において、登山者が安全に登山するために必要な準備ができていることの確認を行う「啓発ゲート」を設置し、山岳遭難防止や登山マナーの向上への効果を検証することにより、今後の山岳遭難防止対策の検討につなげる。

2 設置期間

令和8年7月18日（土）～8月11日（火・祝日）の25日間

3 設置場所

横尾登山口（横尾相談所前）

拇池自然園登山口（拇池自然園ビジターセンター前）

4 実施主体

長野県山岳遭難防止対策協会

5 協力

横尾：信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ

拇池：北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会

6 ゲートでの確認の実施方法

- ・ゲートを通過する登山者に「登山準備・ルール確認票」（以下、「確認票」という。）を用いて、登山の準備状況等の確認を実施した。
- ・事前のWebフォームによる提出を可能とし、報道機関、県や関係団体、山小屋等のHP、SNS、登山地図アプリ、看板・ポスターの掲示、カード配付等により周知を行った。



横尾ゲート



拇池ゲート

7 確認票記入件数・人数

	横尾登山口	梅池自然園登山口	合計
件数	7,094 件 (Web12%)	3,561 件 (Web60%)	10,655 件
人数	14,908 人	9,911 人	24,819 人

※ゲートでの確認票記入と web フォームによる事前提出の合計

※確認票を提出後に登山を中止した者を含み、確認票への記入を拒否した登山者等は含まない。

8 実施結果

(1) 指導を実施した件数、割合

- ・登山計画書未届、装備不足、宿泊予約なし、入山時間遅れ、保険未加入、無謀な登山行程など 2,000 件以上（ゲート通過件数の 2 割程度）に対して指導を行ったほか、天候や登山ルート等についてのアドバイスを多くの登山者に実施した。
- ・指導内容として最も多かったのは登山計画書未提出（16.1%）であり、次いで装備不足（1.7%）であった。
- ・横尾に比べて梅池では、登山計画書未提出、入山時間遅れの割合が高かった。

	横尾登山口	梅池自然園登山口	合計
ゲート通過件数(再掲)	7,094 件	3,561 件	10,655 件
登山計画書未届	875 件 (12.3%)	842 件 (23.6%)	1,717 件 (16.1%)
装備不足	106 件 (1.5%)	71 件 (2.0%)	177 件 (1.7%)
宿泊予約なし	5 件 (0.1%)	3 件 (0.1%)	8 件 (0.1%)
入山時間遅れ	49 件 (0.7%)	99 件 (2.8%)	148 件 (1.4%)

※この他、保険未加入や無謀な行程など 200 件以上に対し指導を実施

(2) 指導で入山を取りやめた件数・割合

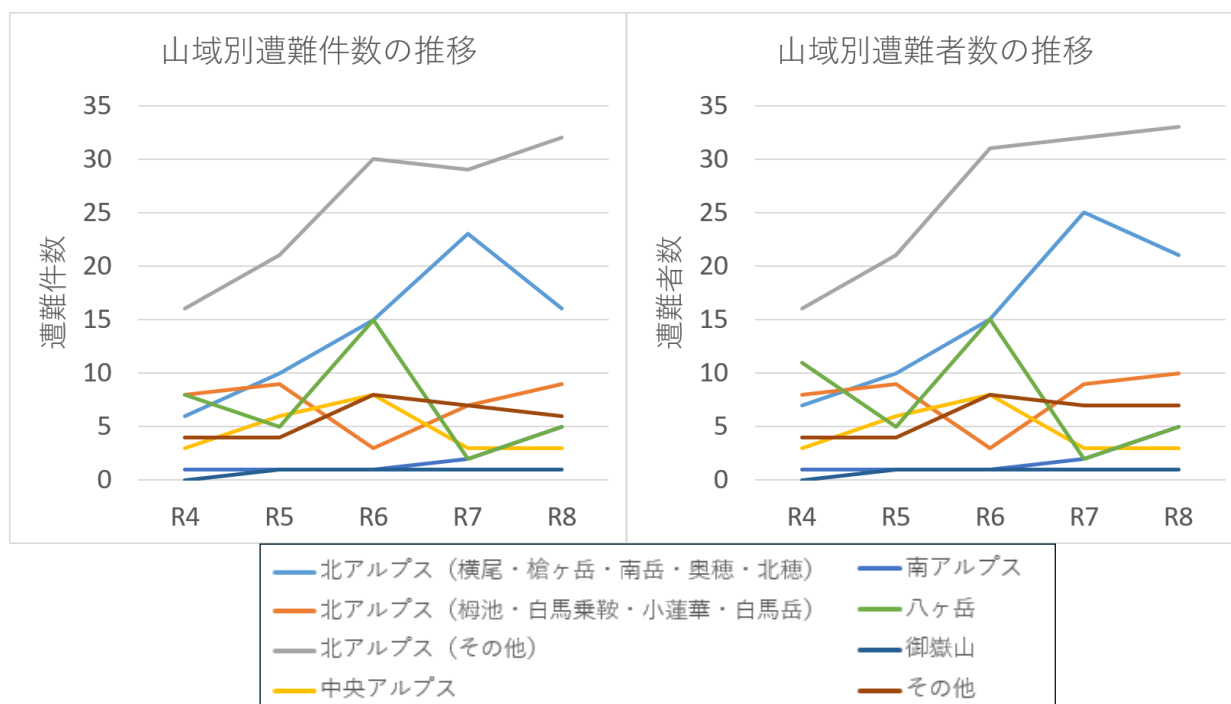
- ・ゲートでの指導により、一部の登山者が入山を取りやめた一方で、入山を取りやめなかった登山者も多くいた。
- ・登山計画書は、入山を取りやめた一部の登山者を除き、すべての未提出者に提出を求めた。
- ・このほか、天候の情報提供により入山を取りやめた登山者、ゲートでの指導により登山の行程（宿泊地）を変更した登山者が多数いた（件数の集計なし）。

	横尾登山口	梅池自然園登山口	合計
登山計画書未提出で入山取りやめ	53 件 (6%)	0 件	53 件
装備不足で入山取りやめ	31 件 (29%)	1 件 (1%)	32 件
宿泊予約なく入山取りやめ	1 件 (20%)	0 件	1 件
到着が遅く入山取りやめ	18 件 (37%)	4 件 (4%)	22 件
合計	103 件	5 件	108 件

※カッコ内は指導件数に対する登山取りやめの割合

(3) ゲート設置期間中の山岳遭難の状況

ゲート設置期間中（7/18～8/11）の県全体の遭難件数は前年比3件増（104.1%）、遭難者数は前年比4名増（104.9%）だったのに対して、横尾ゲート通過者が多く登山する山域（横尾・槍ヶ岳・南岳・奥穂高岳・北穂高岳）での遭難件数は前年比7件減（69.6%）、遭難者数は4名減（84.0%）だった。一方で、拇池ゲート通過者が多く登山する山域（拇池・白馬乗鞍岳・小蓮華岳・白馬岳）での遭難件数は前年比2件増（128.6%）、遭難者数は前年比1名増（111.1%）であり、県全体の増加率よりやや高い結果となった。遭難者数・件数には、他の登山口からの登山者も含んでおり、白馬岳周辺では、今年度大雪渓ルートでの遭難が多発したことも影響した可能性がある。



(4) ゲート業務従事者へのアンケートの結果

ゲート業務従事者に対しアンケートを行い、25名（横尾20名、拇池5名）から回答を得た。

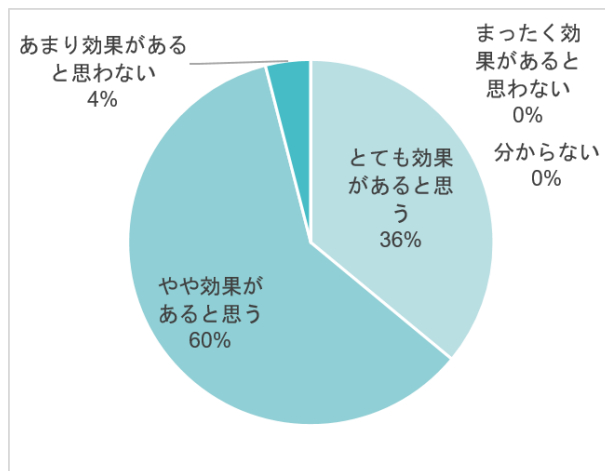
① 啓発ゲートの効果（ゲート業務従事者が受けた印象、複数選択可）

- ・「登山計画書の提出促進」に効果があったとの回答が最も多く、50%以上の従事者が「遅い時間の入山の抑制」「体力・技術・経験に見合っていない登山を行う登山者の抑制」「装備不十分な登山者の抑制」に効果があったと回答した。

効果の内容	回答数	回答率
登山計画書の提出促進	23	92%
遅い時間の入山の抑制	20	80%
体力・技術・経験に見合っていない登山を行う登山者の抑制	18	72%
装備不十分な登山者の抑制	15	60%
登山ルールの理解促進	8	32%
山岳保険の加入促進	7	28%
宿泊予約のない登山者の抑制	5	20%
その他（外国人登山者への注意喚起等）	3	12%

② 遭難防止への効果（ゲート業務従事者が受けた印象）

- ・ほとんど（96%）の従事者が「とても効果があると思う」又は「やや効果があると思う」と回答した。



③啓発ゲートの課題、改善点等（ゲート業務従事者の意見）

- ・【強制力】ゲートに強制力がないため、指導をしても、最終的には本人の意思で入山できてしまうことについて、課題とする意見が複数あった。
- ・【インバウンド対応】英語を話せるスタッフが必須との意見が複数あった。また英語が通じない外国人登山者が多いこと、ルート難易度や所要時間の理解不足、不適切な装備での入山について課題とする声も多かった。改善策としては、韓国語・中国語版の確認票の作成、多言語のグレーディング表、入国前・旅行前段階での情報発信強化などが挙げられた。
- ・【事前周知不足】Web 登録の認知度が低く、もっと大々的な広報が必要との意見があった。また、沢渡バスターミナルやバス内での登山客への Web 登録依頼をすべきとの意見があった（横尾ゲート）。登山地図アプリでゲートを通過する計画を立てると確認票に誘導されるようなことができれば良いとの意見もあった。
- ・【時期・時間帯】お盆期間中も実施すべきとの意見が多くあった。
- ・【設置場所】横尾については肯定的な意見が多かった。母池については、白馬大雪渓での遭難の多かったため、猿倉の方が良かったのではないかと意見が複数あった。他の地域への拡大については、コストや人員などの問題で現実的ではないとの意見が多かったが、初心者が入山しやすい燕岳、唐松岳、千畳敷（積雪・残雪期）等では必要との意見もあった。
- ・【Web 登録】ゲートの運営をスムーズにするため、事前周知を強化すべきとの意見があった一方、Web 登録者はゲートでのチェックを簡略化していたため、安易な登山者の見落としにつながりかねないとの意見があった。また、登山地図アプリの計画書作成と連携できれば登山者とスタッフ双方が楽になるとの意見もあった。
- ・【確認票】記入後の紙はゴミになるため拒否する登山者も多く、確認票に変わるタブレットを導入（ペーパーレス化）すべきとの意見があった。また、登山届と内容が重複しているため、登山計画書の記入項目を増やし、登山計画書 1 つで確認をできるようにすべきとの意見があった。その他、チェック項目数が多すぎる、チェック箇所が分かりにくい、写真やイラストを活用すべきとの意見があった。
- ・【団体への対応】リーダー1 名が確認票を記入する方法だったが、リーダー以外が明らかに

実力不足でも素通りできてしまうことへの懸念が挙げられた。

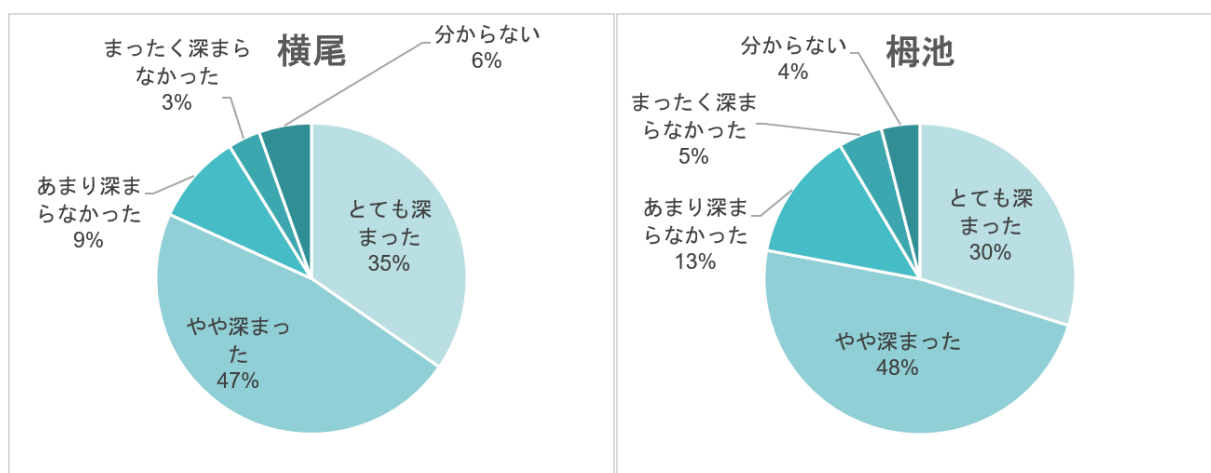
- ・【その他】ゲートまで来て引き返すことは困難なため、チェック項目で不備があった項目に対応できるもの（その場で入れる保険、ストックキャップ等の販売）がゲートにあるとよいとの意見があった。

（５）登山者アンケートの結果

Web フォームにより確認票の事前提出を行った登山者（以下、「Web 提出者」という。）に対し、後日、電子メールにてアンケートを実施し、横尾 329 名（Web 提出者の 37.3%）、梅池 526 名（Web 提出者の 24.5%）から回答を得た。

① 登山準備やルールへの理解促進の効果

- ・横尾で 82%、梅池で 78%の登山者が、登山準備やルールへの理解が「とても深まった」又は「やや深まった」と回答した。



② 登山者の行動への影響

（質問：「登山準備・ルール確認票」の記入や啓発ゲートでの声掛け・指導により、あなたの行動に変化はありましたか？（複数回答可））

- ・「装備を見直した」「山岳保険に加入した」「登山するルートや行程を変更した」「登山計画書を提出した」等と回答した登山者がおり、確認票の記入やゲートでの声掛け・指導は、登山者の行動の変化に一定の効果があったと考えられる。

<横尾>

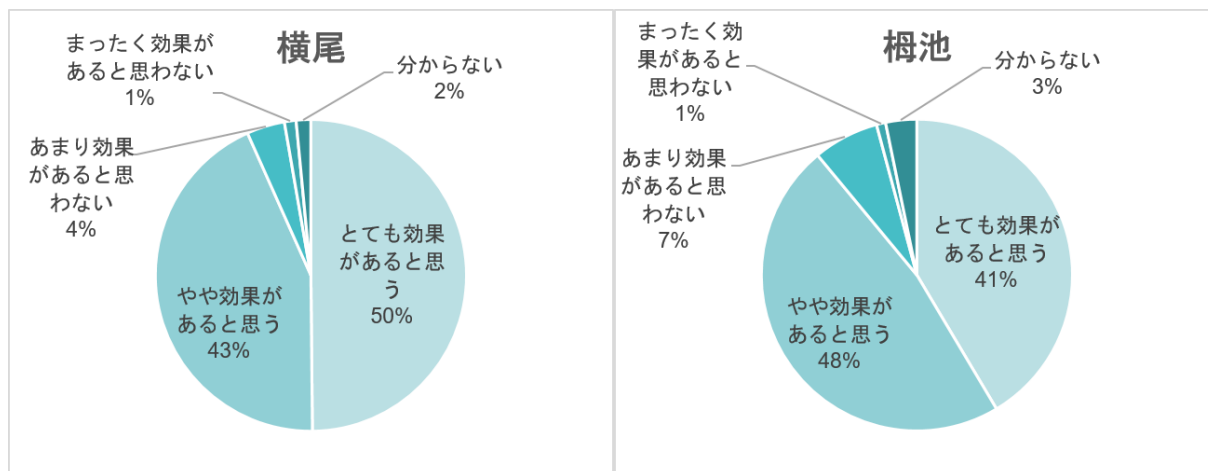
行動変化の内容	回答数	回答率
特に変化はなかった	253	76.9%
装備を見直した	38	11.6%
山岳保険に加入した（加入していなかった）	14	4.3%
登山するルートや行程を変更した	13	4.0%
登山計画書を提出した（提出する予定がなかった）	11	3.3%
宿泊予約をした（予約していなかった）	0	0.0%
その他（準備を再確認した、指導内容に留意して登山した等）	10	3.0%

< 梶池 >

行動変化の内容	回答数	回答率
特に変化はなかった	336	63.9%
装備を見直した	83	15.8%
山岳保険に加入した（加入していなかった）	23	4.4%
登山するルートや行程を変更した	45	8.6%
登山計画書を提出した（提出する予定がなかった）	55	10.5%
宿泊予約をした（予約していなかった）	3	0.6%
その他（準備を再確認した、指導内容に留意して登山した等）	23	4.4%

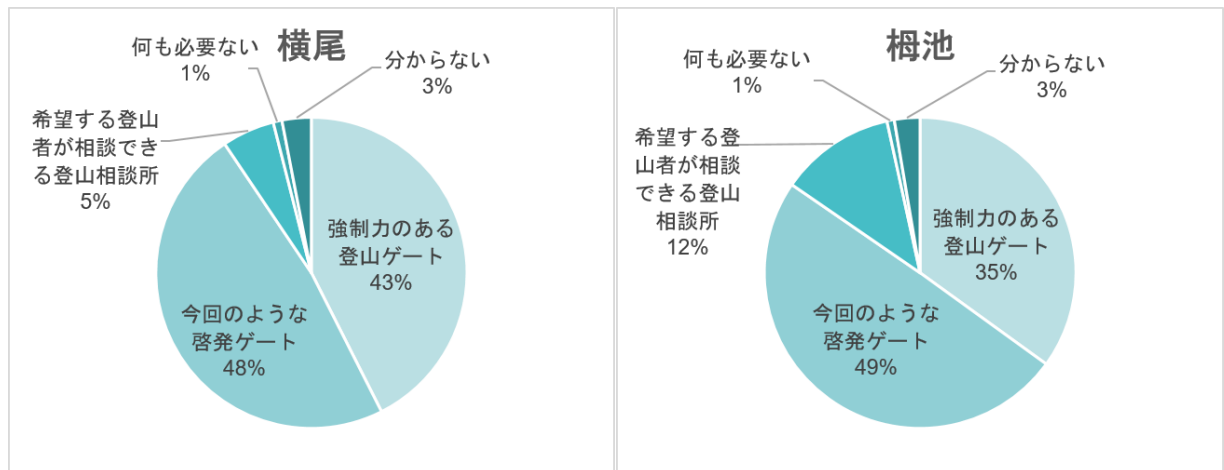
③ 山岳遭難防止への効果（登山者の受けた印象）

- ・横尾で 93%、梶池で 89%の登山者が、啓発ゲートの山岳遭難防止に対する効果が「とても効果があると思う」又は「やや効果があると思う」と回答した。
- ・自由記述では、登山初心者や軽装・準備の登山者の遭難防止には効果があるという意見が多かった一方、経験者や普段から慎重に準備している登山者には当然の内容であり効果がないとの意見も多かった。登山者の経験によって声掛けを変えても良いのではないかとの意見があった。
- ・確認票の項目だけでなく、ゲートでの天候情報や登山道の状況などについての助言が役に立ったとの意見が多くあった。



④ 今後の登山口での遭難防止対策

- ・横尾で 48%、拇池で 49%の登山者が、「今回のような啓発ゲート（強制しない範囲で啓発・確認・指導を行う）」が望ましいと回答し、どちらのゲートでも最も多い回答となった。
- ・一方で、横尾で 43%、拇池で 35%の登山者が、「強制力のある登山ゲート（装備や入山時間等の基準を満たさない場合は入山できない。例．富士山）」が望ましいと回答しており、強制力が必要と感じている登山者も多くいることが分かった。
- ・自由記述では、自由さが山の魅力の一つであり、強制力のあるゲートにはしてほしくないという意見も複数あった。



⑤ 啓発ゲートについての意見・感想

- ・啓発ゲートを評価する声が多数だった。
- ・事前周知が不足しているとの意見が多くあった。
- ・登山口に着いた時点で啓発ゲートの取組を知り、指導されても、装備の調達や計画の変更が困難であり、事前の web 登録でないと行動変容の効果は薄いとの意見が多くあった。一方で、実際にゲートでの指導により登山計画を変更して安全に登山できたという登山者や、その後の山行で指導の内容を参考にしたという登山者もいた。
- ・その場で不足する装備品をレンタルしたり、保険に加入できる等のサービスもあれば良いとの意見があった。
- ・確認票と登山計画書の内容に重複が多く、煩雑なため、一本化を求める意見が複数あった。地図アプリの中に啓発ゲートを組み込めば利便性が向上するとの意見があった。
- ・啓発ゲートの実施期間の延長や他の登山口での実施を要望する回答が多くあった。
- ・運営費用について、入山料を徴収して一部充当しても良いとの意見があった。
- ・現在の確認票では体力不足による遭難防止効果は十分ではないとの意見があった。
- ・軽装でゲートを通過している外国人登山者がおり、外国人への啓発には課題があるとの意見があった。

⑥ その他、山岳遭難防止対策についての意見・提案等

- ・【事前段階での啓発の強化】登山口では装備や計画の変更が難しいため、登山計画段階からの情報提供が重要との意見が多かった。登山地図アプリ、SNS、YouTube、雑誌、登山用品店、山小屋予約サイト等と連携した啓発を求める声が目立った。初心者向けの動画や Web コン

テント、遭難事例を活用した教育が必要との意見が複数あった。

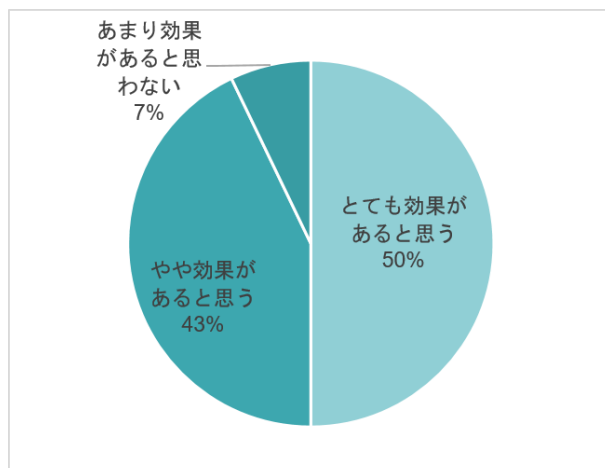
- ・【山岳保険の加入義務化】山岳保険加入を義務化すべきとの声が多数あった。
- ・【救助費用負担】安易な救助要請を抑制するため、遭難救助費用の有料化や自己負担制度の導入を求める意見が多かった。
- ・【体力・経験不足への対策】近年の遭難は装備不足よりも「体力不足」や「自分の力量の過信」が原因との指摘が多数あった。登山歴や直近の登山経験を確認する仕組み、自分の体力とコース難易度を照らし合わせる診断ツールを求める意見があった。
- ・【気象情報・現地情報の充実】正確な山岳気象情報への要望が非常に多かった。天候悪化情報や雷・強風情報、登山道状況、雪渓状況などをリアルタイムで提供してほしいとの意見が目立った。ライブカメラやWebサイト、山小屋での情報発信強化を求める声もあった。
- ・【山小屋のキャンセル料】悪天候時でも、山小屋のキャンセル料がかかることを恐れて、計画を変更せず、無理な入山をする登山者がいるとの意見があった。
- ・【登山者への教育・情報発信の充実】遭難事例や救助事例を積極的に公開し、危険性を具体的に伝えるべきとの意見が多かった。登山マナー、高山病、気象判断、ルート選択などの基礎知識を学べる仕組みを求める声があった。動画や講習会、クイズ形式など、登山者が自分事として学べる工夫を求める意見もみられた。
- ・【入山料の徴収・遭難防止対策財源の確保】入山料制度を導入し、その財源を登山道整備や遭難防止活動に活用すべきとの意見が複数あった。一定額を徴収することへの理解を示す回答もあった。
- ・【外国人登山者対策の強化】装備不足、マナー不足、情報不足を懸念する意見が多かった。多言語による啓発資料や案内、装備チェックの強化、ガイド同行の義務化などを求める声があった。

（６）山小屋関係者へのアンケートの結果

啓発ゲート周辺の山小屋に対しアンケートを実施し、14名（横尾9名、梅池5名）から回答を得た。

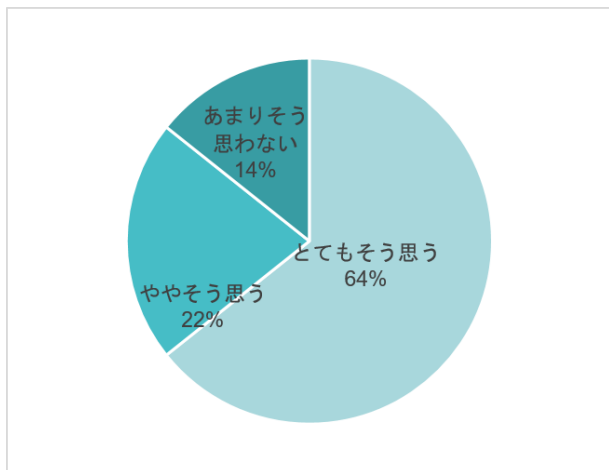
① 山岳遭難防止への効果（山小屋関係者が受けた印象）

- ・9割を超える回答者が山岳遭難の防止に「とても効果があると思う」又は「やや効果があると思う」と回答した。



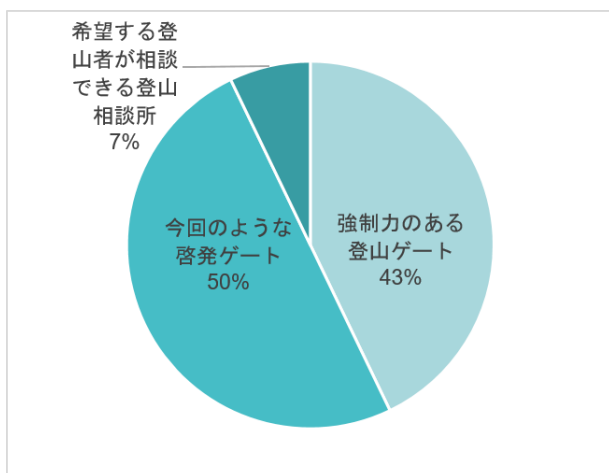
② 今後も、今回のような啓発ゲートを主要登山口に設置すべきか

- ・ 8割以上の回答者が「とてもそう思う」又は「ややそう思う」と回答した。
- ・ 理由として、「装備チェック、遅い入山の抑制等に非常に効果的」「外国人登山者や、観光の延長のような感覚で登山をしている方に対しては、登山口で事前に注意喚起を行うことが、安全な登山につながる」等の意見があった。



③ 今後登山口で行う遭難防止対策

- ・ 「今回のような啓発ゲート」が望ましいとの回答が最も多く、「強制力のある登山ゲート」が望ましいとの回答が次いで多かった。
- ・ 「今回のような啓発ゲート」が望ましい理由として、「一律に入山を規制する強制力のあるゲートよりも、まずは登山者自身に危険性やルールを理解してもらい、安全な登山を促す今回のような啓発ゲートを継続することが望ましい」等の意見があった。



9 今後の取組についての検討

(1) 啓発ゲートの継続的な取組の必要性

登山者、ゲート従事者、山小屋関係者の多くが遭難防止に効果があると評価しており、登山者の安全意識向上につながっていることから、費用対効果等も踏まえながら、今後の継続的な実施の方法について検討する必要がある。

(2) 既存の登山相談所との連携

啓発ゲートは、通過者全員に対し確認票の提出を求め、登山の準備・ルールを確認する点において、既存の登山相談所と異なるが、相談への対応や登山計画書の提出促進など登山相談所と重複する機能を有しており、今後、啓発ゲートを継続的に実施していく場合には、登山相談所と啓発ゲートの役割分担や、登山相談所の啓発ゲートへの移行等を検討する必要がある。

(3) 財源・人員の確保

継続的な事業実施には、運営費用や従事者の確保が課題となることから、安定的な財源及び人員確保の方策について検討する必要がある。

(4) 実施場所の選定

すべての登山口への設置は困難なことから、遭難発生状況や初心者・外国人等ターゲットとなる登山者の利用状況等を踏まえ、遭難防止効果が高いと考えられる登山口を重点的に選定する必要がある。

(5) 事前周知の拡大

登山口到着後では装備や計画の変更が困難であることから、登山計画段階で必要な準備やルールを周知できるよう手法の検討をする必要がある。

(6) 効率化の検討

限られた人員で効果的な運営を行うため、Web 事前登録の活用促進、ペーパーレス化、確認方法の見直し等業務負担を軽減する仕組みを検討する必要がある。

(7) 登山計画書、登山地図アプリ等との連携

登山計画書との重複解消や登山者の利便性向上を図るため、登山計画書と確認票の一本化、登山地図アプリとの連携等について検討する必要がある。

(8) その他の取組との連携

登山前の啓発や学び促進、山のグレーディングの活用推進、登山道情報の発信、遭難事例の周知、山岳遭難防止常駐隊の山中での指導など、他の遭難防止対策と組み合わせることで、総合的な安全登山対策として推進していく必要がある。